

事業者排出量削減計画書 **新規・変更**

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	大阪市西成区花園南1丁目4番4号					
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	イズミヤ株式会社 林 紀男					
事業者の主たる業種	衣料品、食料品、住居関連商品の販売					
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））					
計画期間	平成 20 年 4 月 ～ 平成 23 年 3 月					
基本方針	省エネ、省資源、廃棄物減量に取り組み1%のCO2排出量の削減を目指す					
推進体制	各店舗ごとに「環境責任者」を任命し、省エネ・省資源に取り組む					
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001				
	適用範囲	本社	関東営業部			
	取得年月日	2001年2月	2002年2月			
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	計画内容			
	20～22	温度設定	冷暖房の温度設定は政府推奨温度を勘案の上設定、お客様にも理解していただく。（張り紙等で案内）			
	20～22	照明の無駄の排除	開店、閉店時の無駄な照明の削減、不要な照明の消灯			
	20～22	業務車輛、お客様車輛	業務車輛エコドライブの励行、業務車輛、駐車場待機のお客様車輛のアイドリングストップ運動。			
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）		
	A 事業所等排出区分	19,616 t	19,421 t	-1.0 %		
	B 輸送車両排出区分	t	t	%		
	C その他排出区分	t	t	%		
	排出合計	*1 19,616 t	*2 19,421 t	-1.0 %		
	目標設定の考え方	H19年度報告分からテナントの電気量・ガス量を差し引いたものをH19年度の使用量の基準とする。				
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	
		二酸化炭素換算			%	
		二酸化炭素換算			%	
		二酸化炭素換算			%	
原単位の指標及び計画数値設定の考え方						
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				
		取組量等		（二酸化炭素換算）		
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）		t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）		t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）		t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）		t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）		t
削減量等合計			*3	t		
差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）		目標年度（計画）	増減率（計画）		
	*1	19,616 t	(*2)-(*3) 19421 t	-1 %		
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	各店舗において、小学生を中心に店舗見学の際に、「エコ学習会」を開き、次代を担う子ども達に「環境意識」を持ってもらうような取組みを行っている。					
特記事項						

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用、特定フロンなどの条則指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。